商店街地域未来プロジェクトの概要

商店街名：大曽根商店街連合会（名古屋市）

キャッチコピー

まちの人がつどい、つながり、新たな企てが生まれるような商店街

◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2025年度頃）

大曽根商店街連合会はターミナル機能を有する大曽根駅近くに立地しており、近隣はファミリー・単身世帯向けのマンション開発が盛んで人口は増加の一途を辿っている。（周辺学区の20～40代比率45.5％、市全体38.5%）一方で近隣からの商店街利用は少なく、高齢化による後継者問題等から商店街加盟店舗数は近年では減少しており、加えて、現在当該エリアに22件の空き店舗があるなど、商店街の持続性に懸念がある。

◇商店街の姿

ゆとりのある路上空間における社会実験（憩いの場・チャレンジしやすい場創出)や、現在進行している「つどいタウン」プロジェクトを通じて、従来の買い物の場としての商店街といった側面だけでなく、身近な繋がりの場・新たなチャレンジを応援できる場としての商店街を目指す。
22件の空き店舗の内、5店舗程度への新規事業者誘致を目標とする。

◇地域の状況（2030年度頃以降）

ファミリー層の人口比率は維持されるものの、商店街の事業者の高齢化はさらに進み、商店街主体のイベントが重労働になる。組合員間のコミュニティが希薄化し、組合からの脱会や廃業が進むなど、商店街組織の維持が困難になる。また商店街の空き店舗が増え、マンション等に変わってしまう。

◇商店街の姿

「つどいタウン」プロジェクトにおけるリノベーション事業を皮切りに、他空き店舗におけるリノベーション事例が生まれていく。
商店街の中で集える場所が増えるなかで日常的な賑わいが生まれ、新規出店などのチャレンジが生まれ続ける商店街になる。

◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス）

【構想計画期間：2023年度～2025年度】

- ○商店街の空きビル一棟をリノベーションし、複合施設「つどいタウン」を整備する。「つどいタウン」を交流の場、スタートアップ実践の場として活用することで、商店街の魅力発信や他の空き店舗での開業支援の足掛かりとする。
- ○ゆとりのある路上空間における社会実験を進め、まちの人が集える場所・チャレンジしやすい環境づくりを進めていく。
- ○プロジェクトや社会実験と並行して近隣住民の商店街に対するニーズ調査・ワークショップを実施し、求められる商店街の姿をアップグレードさせていく。
- ○商店街や周辺空き店舗の状況やオーナーの意向等を調査し、出店希望者とのマッチングをはかれるようにしていく。

◎実行体制

(1）未来プロジェクトチーム
構成：若手商店主5名を含む計6名

(2）地域プラットフォーム
名称：大曽根まちそだて会議
目的：「大曽根地域が住み続けたくなる街」であり続けるため、商店街の再生を核に地域の人々の関係性を築きながら、持続的なまちそだて活動を行っていくこと。
参画：商店主、市町村、地域住民、学校

◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

地域に買い回りができる場が少なく、買い物は大型スーパーを利用してしまいがちである。空き店舗が多い商店街である為、一店舗でも地域の方のお食事や様々な憩いや集いの場を提供し来街者が増えることで、安心安全な商店街として活気が戻ることを期待されている。近年まちそだて会議に参画する人々が近隣大学の学生など多様化する中で、自己実現ができる・新たな挑戦ができる商店街としてのニーズが高まっている。